

第12回

## さまざまな民族の声 ～世界の音楽（2）～

### 学習のねらい

声は言葉の基本でもあり、音楽の基本でもあります。世界中の人々が声を使って作り上げている多様な表現に耳を傾け、どうしてそのような表現が存在するのか、その意味を考えてみましょう。なかには一見奇妙に思われる歌声もありますが、そこから人々の生活や信仰とのかかわりや、日本文化との意外なつながりを読み取ることができます。



講師  
植村幸生

### 西アジアの声を聴く

イスラム教の寺院（モスク）で人々に礼拝に集まるよう呼びかける呼び声をアザーンといいます。アラブ諸国、イラン、トルコなど、イスラム教の盛んな西アジアの国々では、力強く張りがあって、細かな装飾に満ちたアザーンの声がよく聞かれます。

アザーンは、私たちにはとても「音楽的」に聞こえますが、イスラム教徒にとっては「音楽」ではありません。宗教にかかわる声の表現を「音楽」とは呼ばないのがイスラム教の一般的な立場なのです。

実はこの考え方は、イスラム教が、声や音の宗教的な力を重んじているからこそ生まれたものです。イスラム教の聖典を「コーラン（クルアーン）」といいます。その意味は「声に出して詠まれるもの」です。西アジアにはコーランをモスクや街中で朗唱する人が多くいます。これらは彼らにとって「音楽」ではなくても、最も聖なる、人生に欠かせない声の表現なのです。

パキスタンやインドの北部ではカッターリーという歌が盛んに歌われています（こちらは「歌」として公認されています）。カッターリーは本来、イスラム教のなかでも音楽と舞踊を積極的に取り入れているスーフィズムという神秘主義の儀式音楽です。カッターリーの専門的な歌手は、その鍛えられた声で神への愛と献身を訴えるように歌い、神と人との一体感を信者にもたらしめます。

このようにイスラム世界では、信仰のあかしとして、また神と人間をつなぐものとして、声がとても大事にされています。

### 世界の「裏声」 ～ヨーデルから島唄まで～

ヨーデルは、独特の裏声を使うアルプス地方の民謡として、皆さんもよく知っているでしょう。本来ヨーデルは、牛の乳搾りなど牧畜に伴う仕事歌でした。ヨーデルが裏声を使うことに

は仕事歌としての実用的な意味があったといえます。牛がヨーデルを聞くと喜ぶそうですし、裏声を使って谷向こうの人と情報伝達をしたともいいます。

裏声歌唱法は全世界にあります。中央アフリカ、ガボン共和国の密林に住むビバヤク族が行う合唱は、裏声の声部が複雑にからみあっています。それは彼らによれば森の精霊との会話なのです。遠い世界にいるものに、裏声を使って何かを伝える、という発想がヨーデルとも共通します。

日本にも鹿児島県・奄美大島の島唄のように裏声をよく使う歌の伝統があります。島唄とは、そもそもは奄美地方で「自分たちの村のうた」を指す言葉でした。昔は奄美でも、遠くの人との連絡に裏声を使っていたといえます。生活の中での声の使い方が、歌の文化へと自然につながっている一例といえます。



### 一人が2つの声を出す「ホーミー」

ホーミーとは一人で同時に2つの歌声を出す不思議な歌唱法です。低い喉声の上に、口笛のような澄んだメロディーをきかせます。モンゴル、ロシア連邦トゥヴァ共和国、ハカス共和国などの内陸アジアに伝わる歌い方ですが、その地域になぜこのような歌い方があるのか、まだよくわかっていません。この地域の宗教であるシャーマニズムとの関係、ヨーデルと同じく牧畜との関係があるなどといわれています。

ホーミーの原理は、口や舌の位置と形を調節することで、低い声に含まれている高い倍音を取り出すというものです。英語のLを発音するように舌を上歯の裏に当てながら、喉をしぼるように声を出すと、比較的たやすくホーミーを歌うことができます。

ホーミーの文化は日本の伝統的な声の文化と無関係ではないように思われます。九州に伝わっていた盲僧琵琶や、いくつかの仏教音楽、浪花節、演歌、あるいは魚屋さんの売り声などには、時にホーミーと共通する低い喉声が含まれます。あの口笛のような高い倍音が偶然に聞こえることさえあります。日本人の心を古くから揺り動かしてきた歌声が、内陸アジアとの文化的なつながりを予想させる点は興味深いことです。

#### ワードファイル

アザーン………イスラム寺院で、礼拝に来るよう人々に呼びかけるアラビア語の朗唱。  
 カッターリー……パキスタンなどのスーフィズム（イスラム神秘主義）の儀式で歌われる宗教歌。  
 宗教の場を離れた映画音楽、大衆音楽としても人気がある。  
 盲僧琵琶………かつて九州の一部で、琵琶を弾きながら経文や語り物を唱え、家々を巡った  
 盲目の僧侶、およびその音楽。

#### ♪ 今回取り上げる曲 ♪♪

- アザーン
- カッターリー
- ヨーデル（スイス・ムオタタール地方）
- ビバヤク族の（ポリフォニー）合唱（中央アフリカ・ガボン共和国）
- 島唄「朝花節」（鹿児島県・奄美大島）
- ホーミー「アルタイ山をたたえる歌」（モンゴル ソンドイ氏）
- 盲僧琵琶「釈文 釈迦の段」（永田法順師）